

## ●敦賀総合研究開発センター



センター長  
安濃田 良成

「ふくいスマートデコミッションング技術実証拠点」については、これまでに1,000名を超える方々に施設をご見学・ご視察いただくとともに、廃止措置関連の研修、企業の技術確認などご利用をいただいております。外部利用の実績は昨年度の14件から、本年度は12月時点で18件と増加しており、利用促進活動の成果が出ているものと考えています。

また本年は、福井県において、「嶺南エネルギー・コースト計画」が始動します。現在、計画策定委員会において計画内容の検討が進められており、「原子力研究及び人材育成」、「廃炉関連産業の育成」、「様々なエネルギーを活用した地域振興」、「多様な地域産業の育成」の4つの基本戦略のもと、主な施策が議論されております。基本戦略に関連した取り組みを進めるうえで、大学等との連携、地域企業との相談、国際協力の推進、ナトリウム取扱いの研修などを継続していくことが重要であると考えており、これらの活動を進めてまいります。

## 令和元年度レーザー応用技術産学官連携成果報告会を開催

今年度のレーザー応用技術産学官連携成果報告会を、12月5日～6日にかけて福井大学附属国際原子力工学研究所（敦賀キャンパス）において開催しました。2日間で企業、大学等から約120名の方々に御参加いただき、研究成果内容について活発な議論がなされました。成果報告会では、対象物を箱の中に入れて透過材（ガラス等）越しにレーザー切断を行うことで粉塵などを閉じ込め、作業環境の汚染を抑制する「閉空間内レーザー切断システム」などについて発表し、2日目の施設見学において実験の様子をご覧いただきました。

引き続き一般産業分野への展開を目指して研究を進めてまいります。



成果報告会の様子(1日目)



施設見学の様子(2日目)



## 原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

### 令和2年を迎えて



敦賀事業本部長  
(副理事長)  
伊藤 洋一

私どもは、「ふげん」「もんじゅ」とともに、認可された廃止措置計画の全体工程に沿った形で廃止措置が進んでいくように努めるとともに、安全確保を最優先に廃止措置に向けた作業を進めてまいります。

今年は、昨年までに培った土台を基に更に質を高めて発展をしていくために、廃止措置をはじめとした研究開発の成果を地元の発展に如何に繋げられるかが、ますます重要になってくると考えています。

既に「ふげん」で培った経験も踏まえ、この敦賀地区が、廃止措置の実証拠点となるように、役職員一同決意を新たにし、取り組んでまいります。



敦賀廃止措置  
実証部門長  
(理事)  
伊藤 肇

「もんじゅ」においては、昨年9月から10月にかけて原子炉容器からの燃料体の取出し作業を実施し、計画通り100体の燃料体の取出しを完了しました。その後、昨年11月からは、燃料体の処理に向けた燃料出入機の手入れ等を行っています。今年の燃料体の処理作業においても、これらの経験を活かし、安全第一で着実に作業を行っていくとともに、2022年度までの燃料体取出し全体計画も着実に完遂できるよう進めてまいります。

次に「ふげん」につきましては、原子炉周辺設備の解体作業を進めております。作業の進捗等を踏まえて、設備の維持管理方法を適切化するなどの廃止措置計画の変更を昨年行いました。使用済燃料の発熱が十分低下したことを踏まえ、燃料を保管した状況での貯蔵プールの除熱機能を停止したことは国内初の事例であり、これは廃止措置のフロントランナーとして大きな成果と考えています。使用済燃料については、2026年度夏頃に搬出を完了するという地元とのお約束を守るべく、着実に進めてまいります。



## ● 高速増殖原型炉「もんじゅ」

地域の皆様をはじめとする関係者の皆さまのおかげをもちまして、昨年行いました9年振りとなる原子炉容器からの燃料体取出し作業は、大きなトラブルも無く、計画どおりに遂行することができました。

「もんじゅ」の今年の燃料体処理・貯蔵作業は、昨年度の経験を確実に反映した方法で臨み、安全最優先で進めるとともに、着実に計画の130体の処理・貯蔵を遂行して参りたいと考えています。



年頭の朝礼の様子



所長  
荒井 眞伸

## ● 新型転換炉原型炉「ふげん」

元号が「令和」となって初めての正月を迎えました。「ふげん」は、この令和という元号のなかで廃止措置を完遂すべく作業を進めていくこととなります。今後に向けて、更に能動的に廃止措置が進められるよう、「ふげん」の道筋をより明確にしてステップアップする年としたいと考えています。

また、原子炉周辺設備の解体作業が本格化する中、おかしいと感じたときには「立ち止まる」姿勢も忘れずに、安全最優先で作業を進めていきたいと思ひます。



年頭の朝礼の様子



所長  
森下 喜嗣

## もんじゅの燃料体取出し作業から燃料体処理作業へ



原子炉からの燃料体取出し片付け作業

昨年9月11日から「もんじゅ」の原子炉内からの燃料体取出し作業を開始し、10月11日に計画していた100本の燃料体の取出しが終了しました。

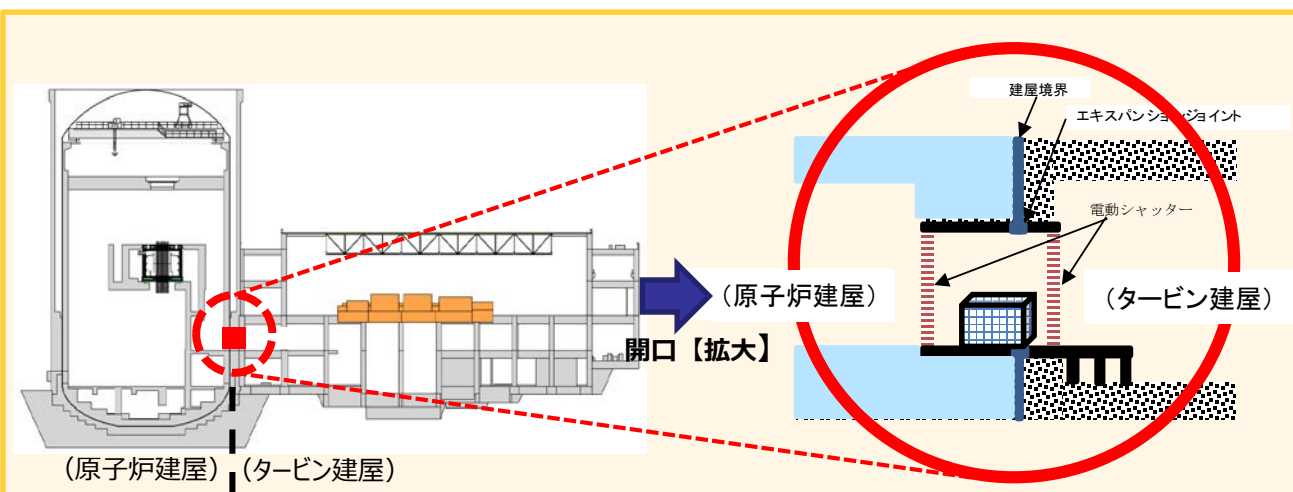


燃料体処理作業の設備機器類の整備

現在は、次の作業である燃料体の処理作業（洗浄作業、燃料池への移送）で使用する設備機器類の整備や国による確認検査などを進めています。

## 原子炉建屋からタービン建屋への搬送ルート整備

ふげんでは、原子炉周辺設備の解体撤去の本格化に伴い、原子炉建屋内で多くの解体撤去物が発生します。発生した解体撤去物を効率的に処理するため、今年より原子炉建屋から隣接するタービン建屋へ直接搬送するための開口を設ける搬送ルートの整備を行います。



廃止措置の実施にあたっては、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆様のご理解を得つつ、着実に実施して参ります。